



2022 年 12 月

- [今回のリリースでの新機能 \(1 ページ\)](#)
- [このリリースでの変更点 \(1 ページ\)](#)
- [不具合 \(3 ページ\)](#)

今回のリリースでの新機能

Cisco Spaces のこのリリースに新機能はありません。

このリリースでの変更点

Cisco Spaces ダッシュボード

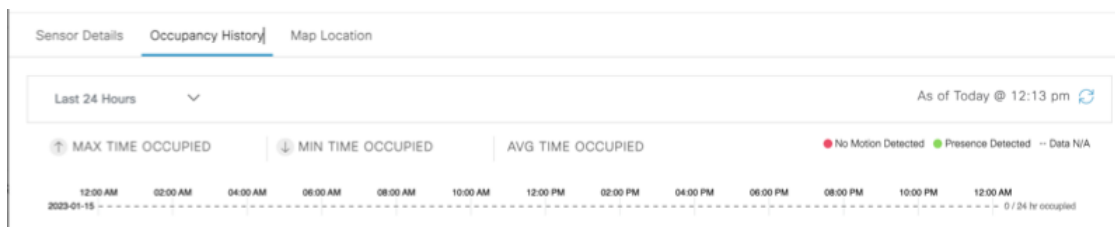
Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

IoT Explorer

- ユーザーワークフローのインポート：IoT エクスプローラアプリの機能が拡張され、新しいユーザーまたは既存のユーザーを特定のユースケースにインポートできるようになりました。[ユーザーのインポート (Import Users)] オプションを使用すると、他のユースケースからユーザーをインポートしたり、ユーザーの詳細情報を含む Microsoft Excel (.xlsx) ファイルをアップロードして一度に複数のユーザーを追加することができます。

ユーザーをインポートするには、[IoT エクスプローラ (IoT Explorer)] > [ユースケース (Use Case)] > [ユーザー/ロール (Users/Roles)] > [ユーザーのインポート (Import Users)] を選択します。

- 占有履歴：[占有履歴 (Occupancy History)] タブには、ユーザーのプレゼンスが、検出された占有および検出されなかった占有のタイムラインとともに表示されます。過去 24 時間、7 日間、または 30 日間のタイムラインでこれを表示できます。占有履歴の詳細情報を表示するには、[プレゼンス検出 (Presence Detection)] > [センサー (Sensor)] > [アセット名 (Asset Name)] > [占有履歴 (Occupancy History)] を選択します。



- Cisco Webex およびトリガー API のサポート：SMS と電子メールに加えて、Cisco Webex およびトリガー API を使用したセンサー通知の送信のサポートが追加されました。通知を設定するには、[IoT エクスプローラ (IoT Explorer)] > [ユースケース (Use Case)] > [ルール (Rules)] > [ルールの追加 (Add Rule)] > [アクションセクション (Actions sections)] を選択します。
- ロケーション履歴：アセットトラッキングのユースケースでは、デバイスのロケーション履歴が記録され、X 座標と Y 座標によって地図上に表示されます。過去 24 時間、7 日間、または 30 日間のタイムラインでこれを表示できます。

マイアカウント

- Cisco Spaces ダッシュボードは機能が拡張され、[サポートアクセスの有効化 (Enable Support Access)] オプションが含まれました。Cisco Spaces の顧客は、[サポートアクセスの有効化 (Enable Support Access)] オプションを使用して、Cisco Spaces サポートチームに対して顧客のアカウントへのアクセスを有効または無効にすることができます。このオプションを有効にすると、Cisco Spaces サポートチームが例外的な状況で問題を検出してデバッグするために役立ちます。
- このオプションは、[マイアカウント (My Account)] > [設定 (Preferences)] セクションで利用できます。アクセスが有効になると、Cisco Spaces サポートチームは顧客の Cisco Spaces アカウントにアクセスできるようになります。



(注) デフォルトでは、[サポートアクセスの有効化 (Enable Support Access)] オプションが有効になっています。

ロケーション階層

ロケーション階層 2.0 は、特定のフロアでリッチマップが利用可能な場合、それらが表示されるように機能が拡張されました。リッチマップをアップロードするオプションは、現在、Cisco Spaces サポートチームによって管理されています。

[3D] トグルボタンをクリックすると、2D フロアマップと 3D フロアマップを切り替えることができます。

不具合

不具合では、Cisco Spaces アプリケーションでの予期しない動作について説明します。「解決済みの不具合」と「未解決の不具合」では、このリリースの不具合を示します。

各不具合について、次の情報が提供されます。

- 識別子：各不具合には、一意の識別子（ID）が割り当てられます。識別子は CSCxxNNNN というパターンで、*x* は任意の文字（a～z）、*N* は任意の数字（0～9）です。これらの ID は、セキュリティアドバイザリ、フィールド通知、その他のシスコのサポートドキュメントなど、シスコのマニュアルでよく使用されます。Technical Assistance Center（TAC）エンジニアまたはその他のシスコのスタッフからも、特定の不具合の ID が提供されます。
- 説明：不具合が発生したときに観察された内容の説明。

未解決の不具合

Cisco Spaces のこのリリースでは未解決の不具合はありません。

解決済みの不具合

ここでは、Cisco Spaces のこのリリースで解決されたバグを示します。

表 1: Cisco Spaces 解決済みの不具合

不具合の識別子	不具合の説明
CSCwd66507	Mapservice UI に重複したキャンパスが表示される

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。